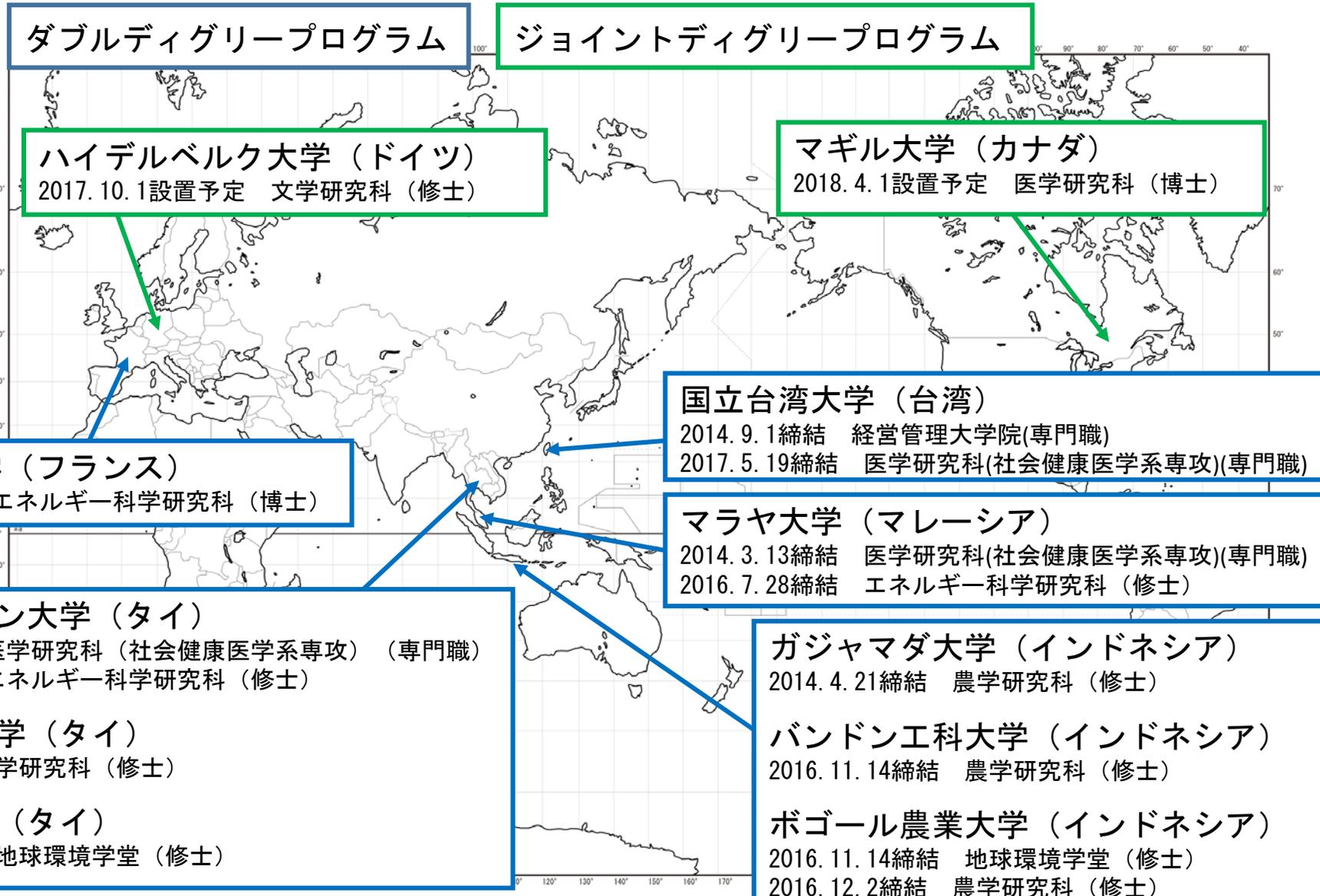




2. ジョイントディグリーの新規開設、ダブルディグリーの拡大

■ 今後はさらに各プログラムを拡充し、新たな取組みとして、「コチューラル」(博士論文の共同指導に基づく共同学位)の枠組みの導入を検討する。



■ ダブルディグリープログラム: 修士12プログラム、博士後期1プログラム ■ ジョイントディグリープログラム: 修士1プログラム、博士1プログラム



3. 国際高等教育院における取組

1. 外国人教員100人の雇用を目指し、平成29年3月末時点で74名を採用
2. 英語による教養・共通科目数→平成26年度114科目→平成27年度171科目→平成28年度225科目

■ 「4. Kyoto iUP、吉田カレッジ構想」により、留学生が増加し、また日本人学生の英語科目履修も増加する見通しであることに伴い、英語科目を増やす取組みを着実に実行していく
(評価指標の「外国語による授業科目数・割合」を推進)

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

- 平成26年度より新入生で外国語として英語を選択した者を対象にTOEFL-ITP試験を年二回実施
→平成28年12月の試験結果から、英語力の維持・向上を確認
- 平成28年に国際人材総合教育棟を新設。学生が自習等で使用できるスピーキングコーナー、カンパセーションルームや、学内でTOEFL-iBTが受験できるCBTルームを備え、語学自習用の機材の貸出、英語ライティング-リスニング担当教員によるワークショップ、TOEIC対策講座等の実施
- 平成28年度より「英語のライティング-リスニング」授業を、20人を基準とする少人数クラスで運用
この科目のすべての授業でリスニングの課題を毎週課すために同院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)で整備した国際言語実践教育システム(GORILLA)を活用
- 平成28年12月にi-ARRCでは外国語の課外学習支援として、新たにポータルサイトを設置して外国語学習に関する情報提供を開始



カンパセーションルームの様子

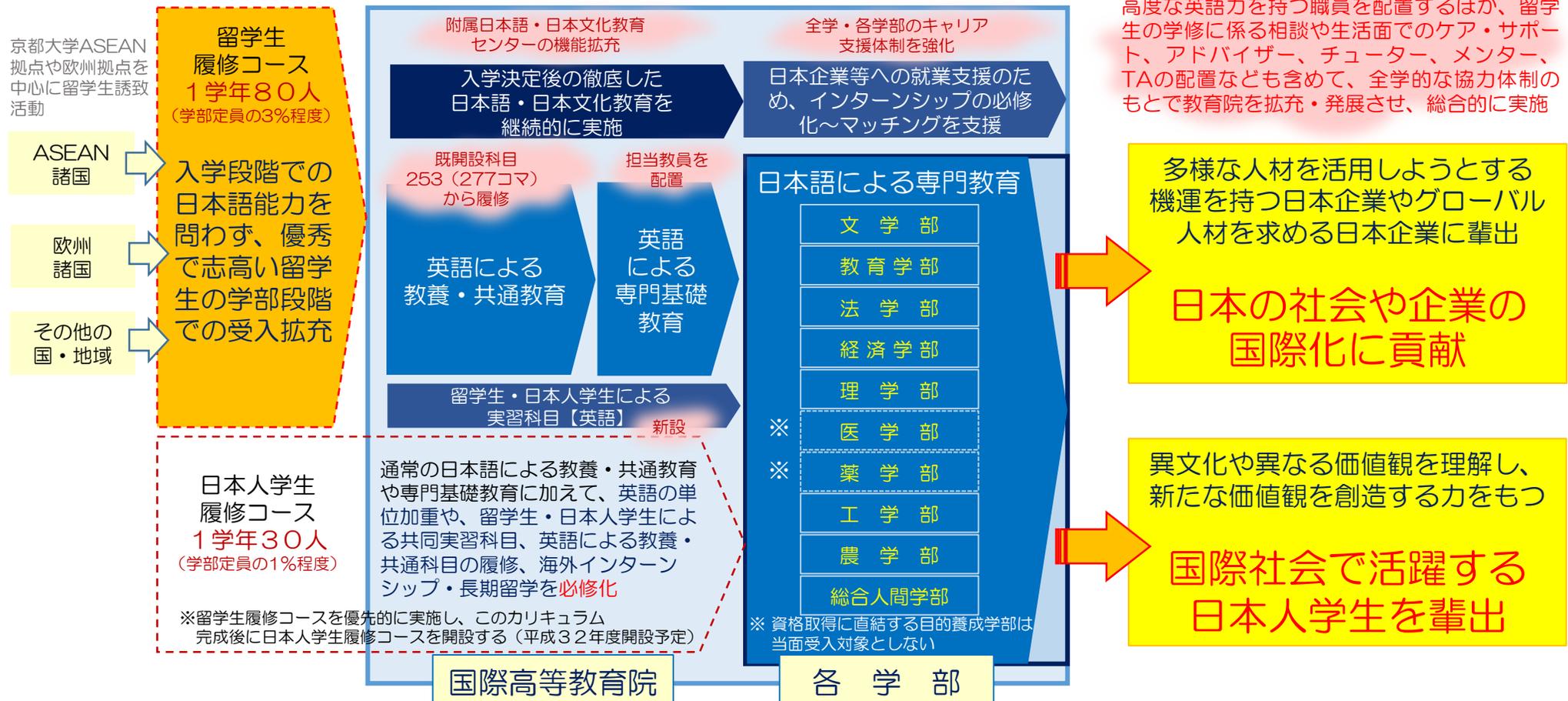


スピーキングコーナーの様子



4. Kyoto iUP、吉田カレッジ構想

■優秀で志高い留学生の学部段階での受入を拡充するため、**学士課程の国際教育プログラムを実施**する。入学段階での日本語能力は不問とし、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施しながら、英語による教養・共通教育を経て、専門教育段階から日本語で講義等を受講し、グローバル展開を図る日本企業へ留学生を輩出、日本社会への定着を図る。これと併せて、国際社会で活躍する日本人学生の養成を強化するため、留学生とともにグループワークやプロジェクト等を進める科目や英語による教養科目を必修とする履修コースを設ける。



双方が密接な連携を図りながら入学者選抜・プログラムを実施